

映画にみる青年期とスポーツ - 青年期におけるスポーツを通じた自己の確立 - Youth age and sports in movies: Establishment of the self through sports in the youth age

1K06A129

指導教員 主査 作野誠一先生

菅原 輝波子

副査 宮内孝知先生

【緒言】

スポーツをする子どもは多い。スポーツを子どもにさせる親も多い。それぞれスポーツをすることに対するプラスイメージがあるのであろう。その中で本研究では人格の成長に着目する。日本国民に大きな支持を得ているプロゴルファーの石川遼は、実力もさることながら、インタビューでのしっかりとした受け答えやファンへの真摯な対応が人気を呼んでいる。また、「スポーツを通して人間として成長したい」という言葉は高校生などからよく聞かれる。人間的な成長の重要性を説くスポーツ指導者も多い。だが実際スポーツをすることによってどのように精神面の成長を遂げるのかはあまり語られない。

そこで本研究では、映画を用いて、青年期にスポーツをすることにより得る経験とその影響について明らかにすることを目的とする。青年期における心理的特徴は「自己の確立」である。活動範囲が広がることにより、様々な価値観に触れ、生まれてから今まで形成されてきた自己概念が再構成されるのである。スポーツは人と関わることにより多くの価値観に触れることができる。また成功と失敗を繰り返す中で自己概念の形成が繰り返される。よってスポーツと自己の確立は関係が深いといえる。また、映画は鑑賞者にこころの動きがわかりやすく伝わるようになっていることや、説明ではなく登場人物の経験をそのまま見ることができるので、スポーツを通じた自己の確立を研究するのに適しているといえる。

【研究方法】

映画ごとに、第1項では「スポーツキーワード」としてスポーツだからこそ登場人物が経験したであろう事象について分析する。第2項では登場人物のひとりに着目し「自己の確立」について分析・考察する。自己の確立については「自己概念の変化」、「周囲の他者（友人・ライバル、親、指導者）から受けた影響」の視点から分析する。分析作品は、より身近である2000年代の邦画から選定した5作品である。

【分析及び考察】

映画の分析・考察により、まずスポーツ活動は自己と向き合う経験が多いということを見ることができた。そしてそれらの経験を筆者なりにひとことで言うと「上へいくために前へ進み続けようとしながら自身を知る」である。その経験は自己の確立に大きく貢献する。また、青年期にある登場人物は友人・ライバル、親、指導者から大きな影響を受けており、それは自己の確立に関係している。また、友人・ライバル、親、指導者にはそれぞれあたえる影響に特徴が見られた。友人・ライバルは、自分に身近な存在であり、比較対象、支え合う相手、刺激し合い向上し合う相手という面があった。親は、青年期というよりも青年期に至るまでの価値観などを決めているようであった。また、親が子どもに与える影響は親の教育観や性格により家庭によってかなり違いがあった。指導者による影響は競技力、自己評価、価値観(特

に競技への)に大きな影響がある。

【結論】

映画は事実ではないという面で本研究には限界があるが、青年期にスポーツを通してする経験と人との関わり合い、そしてそれに伴うこころの動きをまるごと見ることにより、スポーツを通した青年期の自己の確立を具体的に感じることができた。青年期にスポーツ活動することが、青年期の成長にとって有意義であるかはわからないが、青年期にスポーツをすることによって得られる経験とその影響について、具体的に知るために本研究が参考になると筆者は考える。